

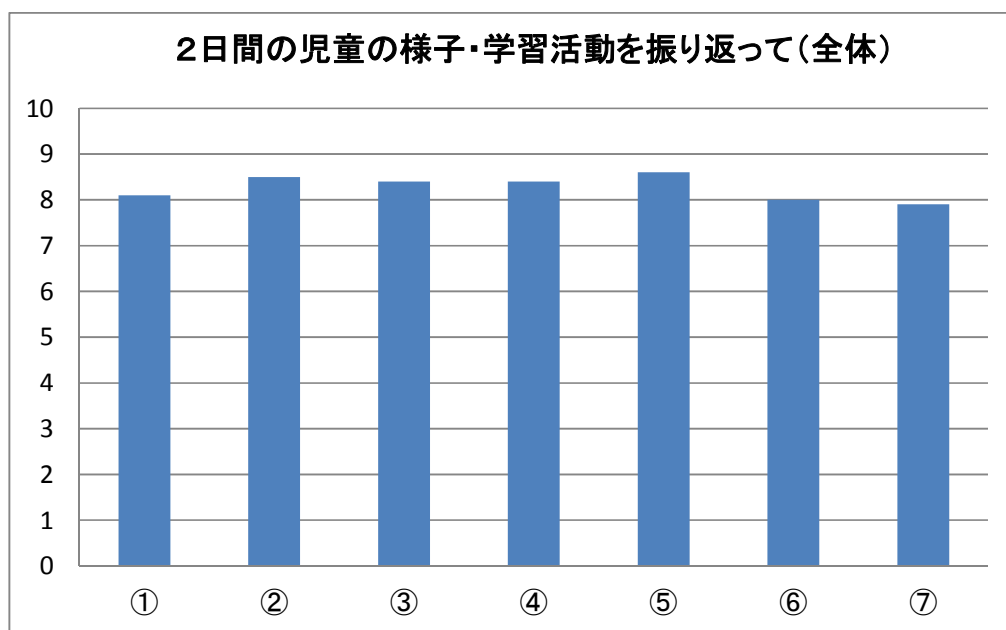
平成27年度 実施状況報告書 集計結果

滋賀県立びわ湖フローティングスクール

【Ⅰ期～Ⅲ期（第1回～第94回児童学習航海）の集計結果】

- ①児童は3つの「あ」の約束(安全・挨拶・後始末)が守れたか。
- ②児童は食事を楽しく食べることができたか。
- ③児童は係など自分の役割の仕事に責任を持って取り組めたか。
- ④児童は自校や他校の友達と協力して学習や活動ができたか。
- ⑤児童はびわ湖環境学習に対して意欲的に取り組んでいたか。
- ☆⑥児童はびわ湖環境学習の内容を理解することができていたか。
- ☆⑦児童は「びわ湖環境学習のめあて」について、学習活動を通して確かめたり学んだりすることができていたか。

(☆印は今年度の重点目標)



質問 時期	①3つの「あ」	②食事 (楽しく)	③仕事の 責任	④協力して 学習・活動	⑤環境学習 (意欲)	⑥環境学習 (理解)	⑦環境学習 (めあての確 かめ・学び)
A	8.1	8.5	8.4	8.5	8.7	8.0	8.1
B	8.2	8.5	8.4	8.7	8.7	8.0	8.0
C	8.1	8.7	8.7	8.1	8.3	7.8	7.9
D	7.9	8.3	8.4	8.5	8.5	7.9	7.9
E	8.2	8.4	8.5	8.5	8.8	8.0	7.9
F	8.0	8.6	8.2	8.1	8.6	7.9	7.7
全体	8.1	8.5	8.4	8.4	8.6	8.0	7.9

A: Ⅰ期(4・5月)

B: Ⅱ期(夏季休業前)

C: Ⅱ期(夏季休業中)

D: Ⅱ期(9・10月)

E: Ⅲ期(11・12月)

F: Ⅲ期(1・2月)

- 昨年度から全航海を「かきくけ航海」と位置付け、「考える」「気づく」「工夫する」「継続する」「行動する」をキーワードに学びを重視した航海を推進してきた。また、児童が事前に学習のめあてを記入し、航海中の「学習のまとめ」の時間に、しおり等に2日間の学びを記入した上で交流する活動を取り入れている。「⑤環境学習（意欲）」の結果は、昨年度に比べ0.2ポイント向上しており、より探究的な学びを意識して乗船中の学習に取り組むことができたと考える。
- 「③仕事の責任」の項目は年間を通じて比較的数値が高い傾向にあり、「船内生活」において、船という限られた空間で皆が快適に過ごせるよう、集団生活における自分の役割をしっかりと意識していると考えられる。

【乗船校からの考察・所感（抜粋）】

- 事前～航海～事後の学習の流れが大切であることを改めて感じた。また、「学習のまとめ」では、子どもたちの生活とびわ湖とがつながり、さらに他校の子どもたちとの友情の輪も広がり、大変効果的であったと思う。しっかり「学びの航海」になったことを嬉しく感じる。
- 一貫して「びわ湖の水の秘密を探る」ことを学習のめあてとしていたため、3つの調べ学習が関連づけて行われた。それぞれの学習の担当者が専門的知識を持つと、より効果的な学習となつたと思われた。
- 「うみのこ」から眺める景色の違いに、どの子どもが感動していた。どの活動も子どもたちは班の子と親しく交流できていたことが感想からうかがえた。学習の最後に県の社会科補助教材DVD「食べることでびわ湖を守る」を見たことは効果的であった。
- 学習室で2日間の学びを発表したが、短時間の準備の中で児童が思いを発表できたことが非常に良かった。事後学習の発表にもつながり、発信することの大切さを子どもが感じられたように思う。
- 課題はフローティングスクールでの学びが中高生になってどのように生かされるかであり、びわ湖をどう守るか科学的な知識として子どもに根づかせる手立てが必要と考える。
- カッター活動では、湖面に近い位置で活動したことで、より身近にびわ湖を感じるとともに、将来にわたって大切にしていかなければならないと感じたようです。しかし、1つ前の航海では強風によりカッター活動ができなかったと知り、改めて自然の厳しさも知ったようです。
- 天候にも恵まれ、長浜でのウォークラリーや雪遊び、水鳥の観察は冬のフローティングスクールならではの活動だった。びわ湖環境学習での水鳥の事後学習は、観察したことを理解し深めることができ、興味深かったようだ。何よりも、冬の澄んだ空気と青空の下で見る景色が素晴らしく、滋賀県の豊かさや琵琶湖の美しさを感じられる航海となった。故郷の美しさを再発見することができた。
- 自分の仕事に責任を持ったり、新しい友達ができたりと子どもたちの成長を感じられる機会となった。
- 大規模校との乗船で、自分から積極的に交流できなかったり、他校の発表に自分たちの足りない部分を感じたり、児童にとって貴重な機会となった。一人一人の仕事には責任を持って取り組んでいたのだから、これを機に最高学年への進級する自覚が芽生えればと思う。
- 他校の児童が本校（特別支援学校）の児童に話しかけに来たり、本校の部屋を訪ねて来たりと、交流する場面が何度もあり、両校の児童にとって貴重な体験となったと思う。